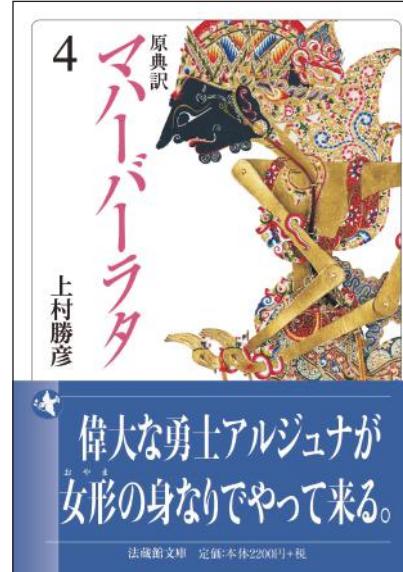


原典訳 マハーバーラタ 4

上村勝彦訳
かみむら かつひこ

▼文庫判・並製カバー・656頁・定価 1,410円

2026年2月刊行



古代インドに産声を上げ、いまなお人々の心に生き続ける世界最長の叙事詩。信頼すべきサンスクリット原典訳の待望の復刊。【全8巻】

【4巻あらすじ】五王子が国外追放となり十三年目。カルナは生まれながらに身につけていた鎧と耳環と引き換えて、的を外さぬ槍をインドラ神から授けられる。五王子らは各自に変装をしてヴィラーダ王の宮廷に潜伏する。ドラウパディーに邪恋を抱いた将軍キーチヤカがビーマによって殺害されると、その噂を知ったクル・トリガルタ連合軍がヴィラーダの都を急襲。だが女形に変装していたアルジュナがクル軍を敗走させ、ついに約定の十三年が満了する。

【目次】

家系図

主要登場人物

マハーバーラタ関連地図

第3巻 森林の巻(ヴァナ・バルヴァン)続き

(37) マールカンデーヤとの会合(第百七十九章 第二百二十一章)

(38) ドラウパディーとサティヤバーマーとの対話(第二百二十二章 第二百二十三章)

(39) 牧場視察(第二百二十四章 第二百四十三章)

(40) 鹿の夢(第二百四十四章)

(41) 一朶の米(第二百四十五章 第二百四十七章)

(42) ドラウパディー強奪(第二百四十八章 第二百八十三章)

(43) 耳環の奪取(第二百八十四章 第二百九十四章)

(44) 火鎧棒(ひきりばう)(第二百九十五章 第二百九十九章)

【訳者略歴】

上村勝彦(かみむら かつひこ)

一九四四年、東京浅草に生まれる。一九六七年、東京大学文学部卒業。一九七〇年、同大学院人文学研究科(印度哲学修士課程修了)サンスクリット詩学専攻。元東京大学東洋文化研究所教授。主な著訳書に『屍鬼二十五話』(平凡社東洋文庫)、『カウティリヤ実利論』(岩波文庫)、『インド神話』(ちくま学芸文庫)、『始まりはインドから』(筑摩書房)、『インド古典演劇論』における美的経験』(東京大学出版会)、『バガヴァッド・ギーター』(岩波文庫)、『インド古典詩論研究』(東京大学出版会)、『真理の言葉・法句經』(中央公論新社)などがある。二〇〇三年、逝去。

注文書

(書店印)

ご担当

様
冊

法藏館 定価 1,410円

上村勝彦訳

【法藏館文庫】

お名前 お電話 住所

ISBN : 978-4-8318-2716-6 C0198

ご注文はFAX:075-371-0458

法藏館

〒600-8153 京都市下京区正面通烏丸東入
TEL 075-343-0458 FAX 075-371-0458
<http://www.hozokan.co.jp> info@hozokan.co.jp

インド古典